

生ごみネットだより

NO 23 2013年5月号

発行 仙台生ごみリサイクルネットワー

〒983-0851

仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地

(みやぎNPOプラザ内)

<http://namagominet.web.fc2.com/index.html>



平成25年度スタートにあたって
貝ヶ森・町内会で落ち葉堆肥化完成
平成25年5月14日の河北新報記事

仙台・貝ヶ森の住民有志

落ち葉堆肥完成

計2トン「花や野菜などに」



街路樹の落ち葉でできた堆肥を袋詰めする町内会役員たち=仙台市青葉区の貝ヶ森1号線地

地域清掃で250袋分を回収

仙台市青葉区貝ヶ森の住民が2012年秋から取り組んできた街路樹の落ち葉を使った堆肥が出来上がった。約2トントの堆肥は、家庭園芸用に住民に順次配られる。放射性物質への懸念から実施が危ぶまれたが、関係者のこまめな測定で完成にこぎ着けた。

堆肥となる腐葉土づくりためほんのり湯気立ちは、貝ヶ森中町内会(23世帯)が主体となり、仙台市NPO法人「仙台生ごみリサイクルネットワーク(生ごみネット)」が製造方法や管理方法を教えていた。佳見らは12年1月、地域清掃で40袋ごみ袋約250袋分の落ち葉を集め、じゆうたんをかぶせた上で月1回程度全体をかき混ぜるなどして、発酵を促してきた。今月12日は、完成した堆肥を住民に配るために袋詰め作業が行われた。発酵の

費用がかかる。堆肥化はい

たため、市の許可を得て堆肥作りを行った。堆肥化中

い取り組みだ。早速花や野

菜作りを行った。

堆肥化中

に定期的に測定し、安全性

「生ごみネット」は、2

009~10年度、泉区長命

生ごみネット会長の山内

ケ丘地区で落ち葉の堆肥化

文勇東北大名誉教授(81)は

を行ったが、震災後は中止

していた。貝ヶ森地区で落

や運搬費を削減する。規制

「堆肥化は落ち葉の焼却費

を袋に入れた。貝ヶ森中町

ち葉の放射性物質を定期的

に測定したところ、基準値

未満の0.07Bq/g程度だつ

る。

発酵促進 放射線量も測定

落ち葉の堆肥化は、長命ヶ丘で平成21~22年の2年間行つたが、23年3月の福島原発の放射能の影響で、仙台市は取りやめを決めた。私は、佐藤わか子議員を通じて仙台市長に、「落ち葉は放射能を測定し既成未満のものは資源として有効に利用すべき」ということを要望書を出し、同時に河北新報の時論・持論でも訴えた。しかし仙台市からの回答は、農水省から「落ち葉堆肥の製造は〇.10マイクロシーベルトを超すロットの出る可能性がある宮城県は製造を認めないと」という通達が出ているので仙台市としては全面的には認められないとい返事であった。しかし、河北新報に毎日出ている仙台市の放射能はだいたい〇.05マイクロシーベルトであり、なお我々は製造販売する堆肥でなく自家用であり、放射能は測定しながら作るという事で貝ヶ森の堆肥化に取り組んだ。我々の熱意が仙台市に通じたのか、堆肥の指導の依頼と、公園使用の許可が仙台市から得られ、そして仙台の一地域でたい肥化が完成したことは、今後の堆肥化運動の弾みとなろう。

平成25年5月

会長 山内 文男

4/20(土) 総会開催、すべての議事が承認されました。会長挨拶(斎藤さんの議事録より)

昨年1年はご苦労様でした。今年度1年を締めくくり一番感じているのは例会に出る人が少なくなったことである。先日仙台市と話し合いがもたれ、その際出た話で、出前講座に出席した人でずっと続いている人は一人しかいなかつたということである。トラブルが起きた時など、講座後のフォローにもっと力を入れる必要があると感じた。当会では菜園チームの活動が盛り上がっている。実際に畑で生ごみ堆肥メカニズムを勉強し、元気な野菜作りを体験する事をもっと広めて、会員を増やしていきましょう。

◎植木鉢での堆肥化に挑戦しましょう

ダンボール堆肥はダニの発生が気になり、雨に弱く、虫が発生しやすいなどの弱点がありました。この方法はプランターの古い土が利用できるのでアパート、マンション住まいの方にもすすめられます。

《ベランダでもできる生ごみのリサイクル！》

堆肥作りの主役は好気性微生物です。この微生物はたっぷりの酸素と適度な湿り気がないと活動できません。さらに温かいところでないと元気に活動できません。気温が15°C以下になると好気性微生物は活動を停止してしまうのです。これから暖かくなってくるので始めるのに最適です。（冬場の堆肥化には寒さを防ぐ工夫が必要）

《用意するもの》

- ① 大きめのプランター（中に乾いた土）
- ② 菊鉢
- ③ ヌカ
- ④ スコップ



《使い方Ⅰ》

1. 大きめのプランター（野菜用）に乾いた土を貯めておきます。
2. プランターに菊鉢を入れ、その菊鉢の底にネットを敷き、乾いた土を入れます。
3. 生ごみとヌカをよく混ぜ菊鉢に入れたら、プランターの中の土をかけます。
4. 3. を繰り返し菊鉢がいっぱいになったら、別の菊鉢で2.～3.を繰り返します。



《チョットの工夫》

- ✧ シンクの中の生ごみ入れを洗い場の外に置く。
- ✧ 「新聞紙とかご」で生ごみの水気を少しでも取る。
- ✧ （水分が多い時は外で風乾）
- ✧ ペットボトルに生ごみとヌカを入れ、台所で保存。
- ✧ 2,3本たまつたら天気のいい日に菊鉢に入れる。
- ✧ 土とまぜて生ごみ分解をみまもる。

《使い方Ⅱ》

いっぱいになった鉢は2ヶ月間位そのまま置きます。すると、鉢の中の生ごみは殆ど分解されています。時々スコップでかき混ぜ、日に当て乾燥させると、生ごみを堆肥化する土として再利用出来ます。堆肥が必要な場合は、発砲スチロールに入れ保存します。

臭いもせず、土の中にいる微生物の力で良質堆肥ができます！
注意：夏場は虫よけに植木鉢にカバーをかけた方がいいです。

